

新中期計画の第2委員会から第5委員会答申を受けて

2010年10月20日 常任理事会

本年6月の新中期計画各委員会の間接まとめの提起と全学園での意見集約以降も、各委員会では精力的に検討を継続いただき、このたび、第2委員会、第3委員会、第4委員会、第5委員会の検討が取りまとめられた「答申」が常任理事会に報告されました。

委員長をはじめ委員のみなさんには、2009年12月以降、長期にわたり真摯にご検討いただきましたこと、また教職員のみなさんには意見集約を通じて論点を深めていただきましたことに深く感謝申し上げます。

第2委員会答申「学習者が中心となる教育の創造 - 立命館教学の充実と学力の形成」では、立命館がめざす学力形成のための多様な「学びのコミュニティ」形成をはじめとした方向性とそれを具体化するための、一貫教育と接続教育、初年次教育、卒業時の学びの質保証、大学院教育といった課題とその充実のための政策が提起されました。

第3委員会答申「包括的学習者支援政策と体制の検討」においては、正課・課外の枠を超えたコミュニティでの学びへの支援と個別的サポートを組み合わせた包括的支援政策の構築にむけて、2020年にむけた課題と方向性、さらには早期に具体化すべき課題としての特別支援ニーズを持つ学生への支援、課外自主活動・スポーツ政策、奨学金政策が提起されました。

第4委員会答申「グローバル化時代の研究大学をめざして」では、立命館の研究の2020年にむけた4つの基本方向と9の重点課題を踏まえ、独創的で多様な研究の推進及び研究拠点の形成、研究環境の整備・充実、若手研究者育成といった立命館大学とAPUの2011年から2015年に具体化すべき実施案が提起されています。

第5委員会答申「働きがいがあり、社会から支持される民主的な学園づくりにむけて」では、参加・参画による民主主義的学園づくりをはじめとした方向性とそれを実現するための2015年の到達イメージ・主要課題として、意思決定の分権化、多元的参加チャンネルの構築、ワークライフバランスの実現、教職員整備計画、地域・校友・父母との連携などが提起されました。

なお、第1委員会は、上記委員会答申の提起とそれを具体化するための人的体制、スペース確保といった条件整備の課題を計画の全体像・フレームに位置づける役割から、今次提起された委員会答申を追いかけて検討を進めることとなります。

また、常任理事会は本年 7 月に特別委員会の検討を受けて「立命館大学に関するキャンパス将来構想」を全学園に提起し、討議集約も踏まえ、その課題解決にむけた検討に現在も取り組んでいます。

今次答申として提起された 2020 年にむけた立命館の「学習者が中心となる教育、正課・課外の枠を超えた学びへの支援」「研究」「学園づくり」の方向性とその具体化の施策を実現するためにも、条件整備（教職員の人的体制充実、教育・研究の質の向上に資する既存キャンパス整備と新たなスペースの確保）が必要であり、特に立命館大学においては、新たなキャンパス創造が必要であることは、この間の学園における議論の到達点として、あらためて確認したいと考えます。

今後は、各委員会答申の内容、学部・研究科・学校の教学展開、キャンパス創造といった議論を収斂させていく計画要綱を策定する段階に入ります。総合調整会議（拡大）において計画要綱の検討を行い、学園の教職員、学生・院生とも意見交換をするなかで、年末／年度末にむけて計画を確定していく議論を常任理事会として進めていきます。2020 年にむけた立命館の計画策定にむけて、教職員のみなさんには引き続きご協力をお願いします。

さらに、各学部・研究科・学校・部課では、各委員会の答申について旺盛にご議論いただくとともに、今次答申の提起に基づいて 2020 年にむけた学部・研究科・学校の展開、各部課の行動計画の検討をいっそう進めていただくことを、強くお願いするものです。

以 上

今次の委員会答申は、期間を設定した討議集約を行うものではありませんが、答申へのご意見、ご指摘、ご質問等ございましたら総合企画課（担当：五坪 chi-g@st.ritsumeai.ac.jp）までメール等でご連絡いただきますよう、お願いします。

答申文書につきましては、教職員 R2020 サイトに PDF データを掲出し、ダウンロードいただけるようにします。

教職員 R2020 <http://www.ritsumeai.ac.jp/mng/gl/so-ki/r2020/index.html>